

学校経営方針

1 学校教育目標 「なかまとともに たくましく しょうらいへの道を切り拓く子」

2 目指す児童像

- 自他を大切にし、思いやりのある子 (豊かな心)
 - 心も体もたくましく、ねばり強く挑戦する子 (たくましい心と体)
 - 自分の考えを持ち、行動する子 (確かな学び)
- ※育成すべき資質・能力→「表現力」

3 目指す学校像

- ・児童が通いたい学校
- ・保護者が通わせたい学校
- ・地域の人々が誇りに思う学校
- ・教職員が働きたい学校

4 目指す教職員像

熱意・誠意・創意のある教職員集団

- ・目標を持って、前向きに教育活動にあたる教職員
- ・自らの成長を目指し、協働し学び続ける教職員
- ・児童、保護者、地域に信頼される教職員

5 重点目標及び具体的な取組

(1) 豊かな心の育成 → 自他を大切にし、思いやりのある子の育成 (おもいやり)

- ①命を大切にさせ、心のルール「自分がされていやなことは人にしない」を守らせている。
 - ・人権教育(命の教育)、道徳教育、情報モラル教育の充実
- ②「感謝」の心を育て、進んで人の役に立とうとする子を育てている。
 - ・たてわり活動・委員会活動等異学年交流、地域との交流を通じた取組の推進
- ③心から「ありがとう」、素直に「ごめんなさい」が言える子を育てている。
- ④児童一人一人の良さを見出し、認め、伸ばす教育を推進している。
 - ・特別支援教育、発達支持的生徒指導の充実
- ⑤不登校やいじめの未然防止・早期対応・早期解決に努めている。
 - ・生活アンケート、QI、教育相談(定期面談)による情報収集・分析・共有
 - ・ポジティブ教育の推進

(2) 健やかな体の育成 → 心も体もたくましく、ねばり強く挑戦する子の育成 (ちょうせん)

- ①あいさつ、そうじ、整理整頓、時間順守等、社会生活に必要な習慣づくりをさせている。
 - ・あいさつ運動、たてわり掃除、委員会活動での取組
- ②運動に親しむ活動を積極的に取り入れている。
 - ・たてわり活動、がんばり月間(鉄棒、水泳、マラソン、なわとび)の取組
- ③健康的な生活習慣の定着(早寝、早起き、適切なネット利用)や食育の充実を図っている。
 - ・規則正しい生活習慣確立のための保健指導の推進

- ・給食指導の充実と他機関と連携した食育指導の推進
 - ④自分で立てた目標に向かって、ねばり強く、最後まで取り組む子を育てている。
 - ・学校行事等での目標設定、振り返りの取組
 - ⑤危機管理・危機回避能力の育成を図っている。
 - ・登下校指導、交通安全教室、ひまわり教室、避難訓練等、安全教育の充実
- (3) 確かな学力の育成 → 自分の考えを持ち、行動する子の育成（かんがえる）
- ①自分の考えを持ち、表現し、自分の学びをよりよくしようとする子を育てている。
 - ・子どもの学びに焦点を当てた授業実践、おおい教研との連携
 - ・「表現力」に焦点化した研究の取組
 - ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実のため、タブレットを活用した授業を行っている。
 - ・AIドリル（Qubena）の活用による自学自習の定着
 - ・ロイロノートを活用した協働的な学びの実践
 - ③ふるさと学習での学びを教科学習につなげた取組を行っている。
 - ・総合的な学習の時間を中心とした体験活動、探究活動の推進
 - ・体験活動、探究活動と関連させた教科学習の取組
 - ④伴走者として、児童一人一人の発達を支援している。
 - ・反復学習、スモールステップ、ユニバーサルデザインの授業の実践
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と支援会議の実施
 - ⑤読書活動の充実を図っている。
 - ・名田庄図書館との連携、学級文庫、読み聞かせ、児童会委員会活動の取組
- (4) 家庭・地域との連携 → 信頼される学校づくり、地域とともに歩み育つ学校づくり
- ①地域の人的・物的資源を活かした「ふるさと学習」を推進している。
 - ・ふるさとへの理解を深め、愛着を育てる体験活動の推進
 - ②家庭・地域と連携し、ともに子どもを育てる取組を進めている。
 - ・親子読書、PTA行事(親子ピカピカ作戦、ふれあいチャレンジ教室等)、地域行事の参加
 - ・教育ボランティアの募集
 - ③学校公開日を設定し、家庭や地域に学校の教育活動を公開している。
 - ④各種たより、ブログ、メディア等を通して、学校の教育活動を積極的に発信している。
 - ⑤服務規律の徹底及び綱紀粛正に努めている。
 - ・定期的な服務研修の実施
- (5) 業務改善 → 「教職員が輝く」働き方改革の推進
- ①校務支援システム（C4th）、学校保護者間連絡システム（Home&School）を活用している。
 - ②勤務時間を自己管理し、超過勤務の縮減に努めている。
 - ③家庭・地域・学校それぞれで自己実現しようとしている。